

はしがき	i
第I部 分裂文	1
第1章 日本語の分裂文の談話における機能	2
1. はじめに	2
2. 先行研究の紹介	3
3. 日本語の分裂文の談話における機能	5
4. まとめ	19
第2章 分裂文・疑問文・ウナギ文	21
1. はじめに	21
2. 分裂文と「疑問文+答え」	22
3. 分裂文とウナギ文	29
4. おわりに	32
第3章 分裂文と「のだ」文	
—— 課題設定のあり方と構文の文脈依存性 ——	33
1. はじめに	33
2. 「のだ」文と分裂文	34
3. 分裂文および「のだ」文と文脈	36
4. まとめ	41
第4章 分裂文と情報のなわ張り理論	43
1. はじめに	43
2. 情報のなわ張り理論	43
3. 情報のなわ張り理論による分裂文の分析	47
4. 「XのはYだ」と「XのがYだ」	51
5. 前提部分の名詞句的性格	55
6. おわりに	58

第Ⅱ部 接続表現	59
第1章 Even so / それでも、そうだとしても、それにしても	60
1. はじめに	60
2. 接続表現“even so”について	61
3. 接続表現“even so”と Sweetser (1990) の“Domain”	62
4. 接続表現「それでも」「そうだとしても」「それにしても」について	64
5. おわりに	69
第2章 理由を表す now that 節をめぐって	71
1. はじめに	71
2. “Now that” 節の統語的特徴	72
3. “Now that” 節が表す事態の特徴	74
4. “Now that” の接続機能の多様性	76
5. “Now that” 節の用法の拡張	79
6. おわりに	81
第3章 コンピュータ・コーパスを利用した now (that) 節の分析 …	82
1. はじめに	82
2. 本章で利用したコーパスについて	83
3. now(that) 節の統語的特徴と意味的特徴	86
4. now(that) 節とテンス・アスペクト	91
5. now(that) 節の生起位置と Sweetser (1990) の3 認知領域	94
6. now(that) 節の用法の拡張	96
7. now(that) 節の内部構造について	98
8. おわりに	100
第4章 接続表現としての「それも」 —— 情報付加のあり方と文法化の可能性 ——	104
1. はじめに	104
2. 「それも」の接続機能	107
2. 文法化の可能性	112
3. 「それも」と文末のモダリティ	121
4. まとめ	124
参考文献	126